

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	西区
学 校 名	堀江小学校
学校長名	高橋 純一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・堀江小学校では、第6学年 224 名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和5年度の平均正答率は、2教科とも大阪市平均を上回っており、全国平均と比較しても、国語科は3.8ポイント高く、算数科は5.5ポイント高かった。
また、平均無回答率は、2教科とも全国平均、大阪市平均より少なく、問題に対して粘り強く取り組む姿勢が表れている。
一方、学習内容の定着に課題がみられる児童が、3教科とも約2割程度みられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

全国平均と比較して、「知識・技能」において1.7ポイント、「思考・判断・表現」において5.5ポイント上回っており、国語科の学習がおおむね習得できている。一方、漢字を文の中で正しく使うことにおいて、全国平均を下回っており課題がみられる。朝学習の時間を利用して基礎基本の学習の確実な定着を図るなど、課題解決に向けて取り組んでいる。

〔算数〕

全国平均と比較して、「知識・技能」において4.7ポイント、「思考・判断・表現」において5.9ポイント上回っており、算数科の学習がおおむね習得できている。一方、「図形」領域と「記述式」回答については、正答率が50%台となっており課題がみられる。算数科で、協働的に学ぶ時間を取り入れるなど、課題解決に向けて取り組んでいる。

質問紙調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」の最も肯定的回答が全国平均と比較して3.8ポイント高い。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」について肯定的な回答が94.5ポイントであった。自分や他者を大切にする児童の様子がうかがえる。

学習活動において、「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか」について肯定的な回答が全国平均と比較して1.7ポイント上回っており、協働的な学びの推進が見受けられる。一方、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」についての肯定的回答が、全国平均と比較して1.8ポイント低い。主体的な学びの実現に課題がみられる。

今後の取組(アクションプラン)

国語科では、漢字の学習を中心とした、基礎的・基本的な学習を丁寧に取り組み、確実に習得できるようにするとともに、獲得した知識を活用する場面を多く設定することで、生きて働く知識・技能の向上をめざす。

算数科では、基礎的な知識の習得をベースにしつつ、算数的活動を中心とした目的意識をもって主体的に学習を進める中で、自分の考えを様々な形で表現する場面を意識的に設定し、論理的に思考する力の育成をめざす。

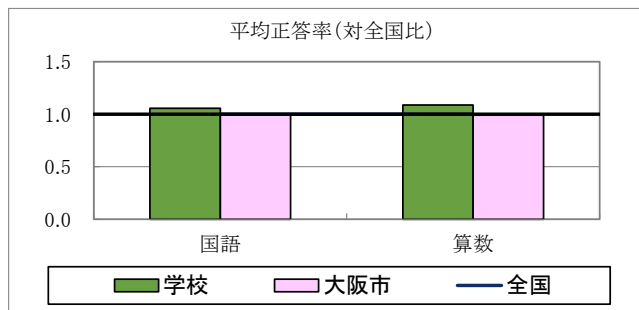
以上のことを念頭に行う校内研究では、学力向上支援チームのアドバイザーの先生の意見を参考にし、よりよい授業づくりの研鑽に励む。

学校生活においては、自分や他者を大切にできるよさをこれからも維持しつつ、学習活動の場においては、校内研究を中心に、児童が主体的に学ぶ場面を確保する。

【 全体の概要 】

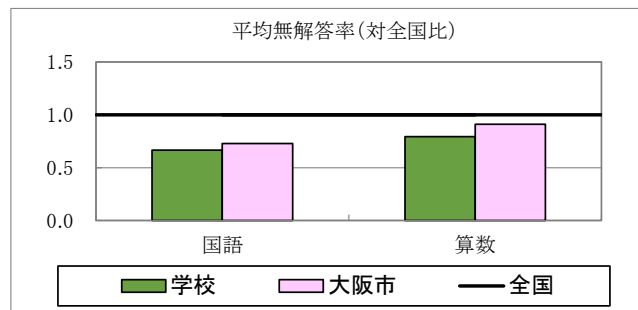
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	71	68
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



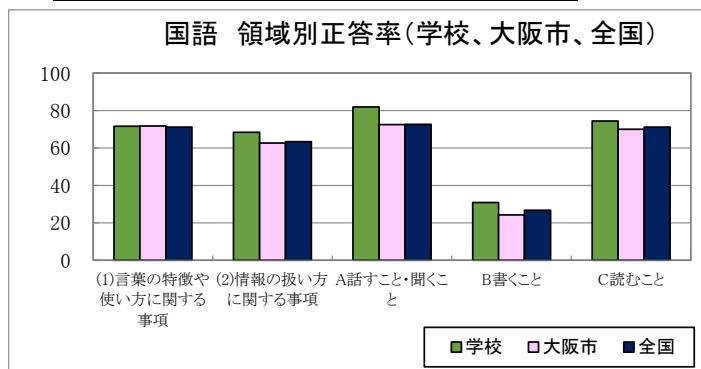
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	3.2	2.7
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4



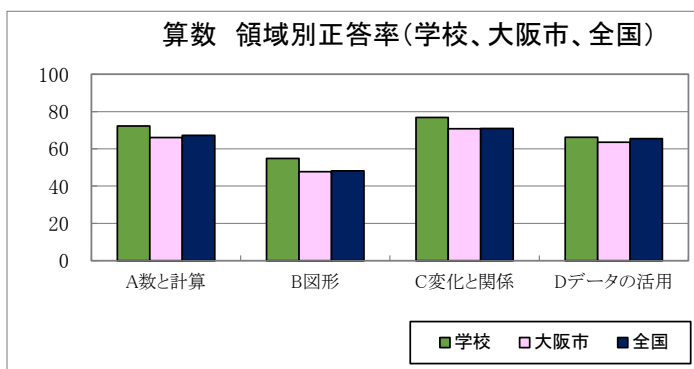
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	71.5	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	68.3	62.6	63.4
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	81.8	72.4	72.6
B 書くこと	1	30.8	24.2	26.7
C 読むこと	3	74.3	69.9	71.2

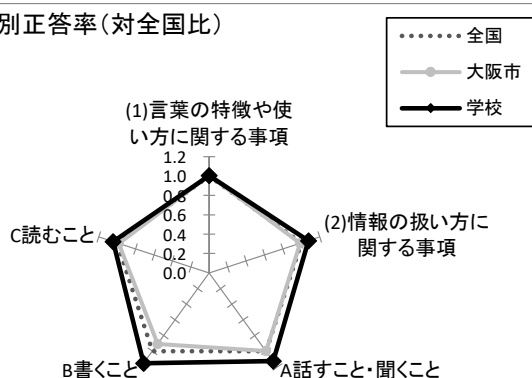


【 算 数 】

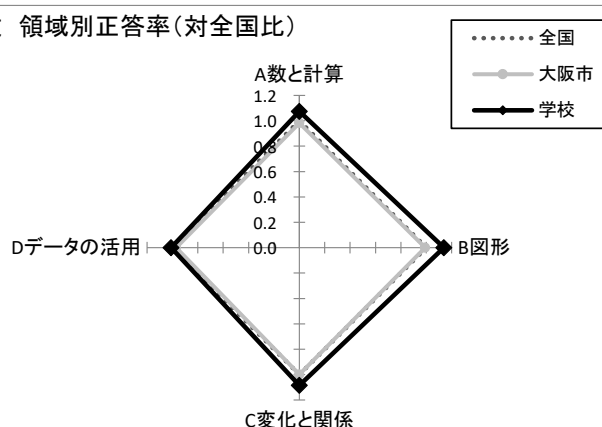
学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	72.3	66.1	67.3
B 図形	4	54.9	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	76.9	70.8	70.9
D データの活用	3	66.2	63.6	65.5



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

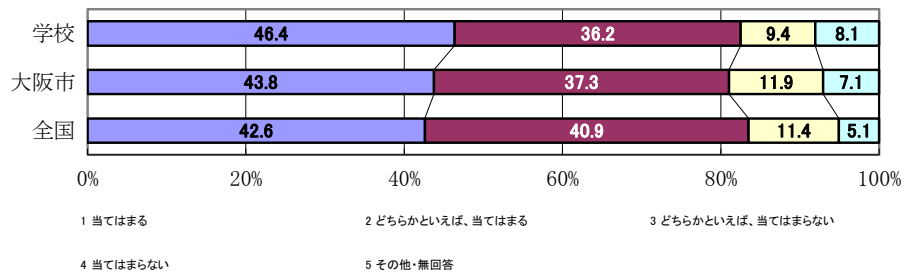
質問番号

質問事項

4

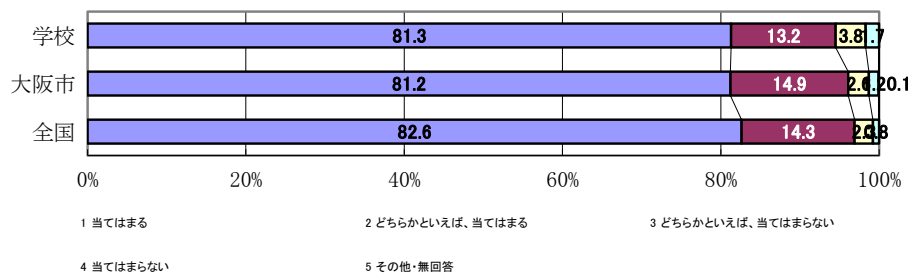
自分には、よいところがあると思う

1 2 3 4 5 6 7 8



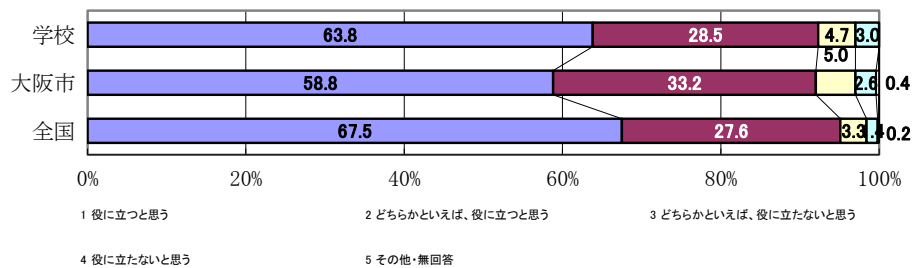
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



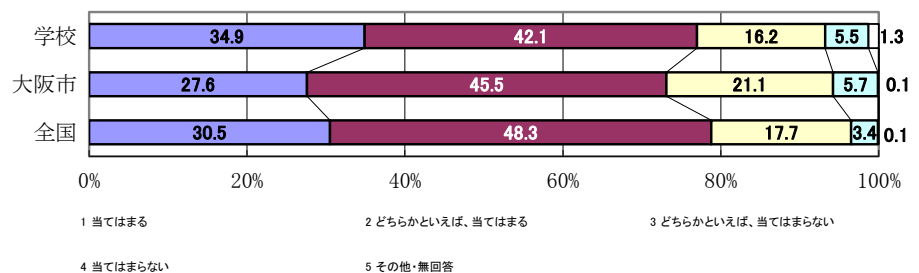
30

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



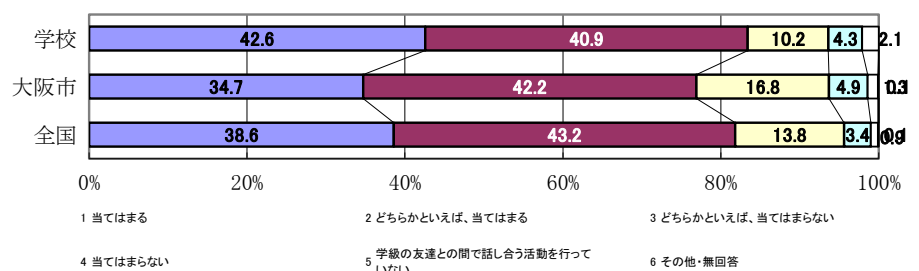
33

(5年生までに受けた)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

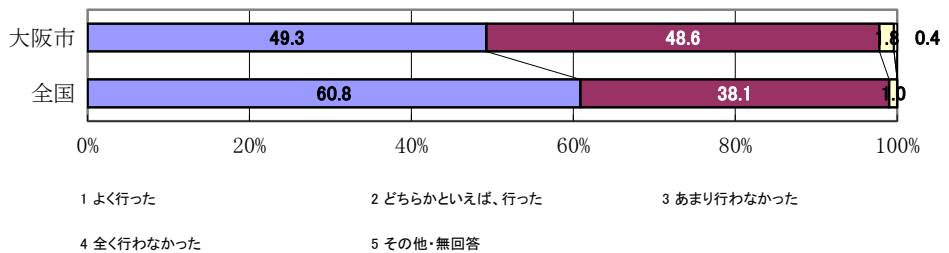
質問番号

質問事項

13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

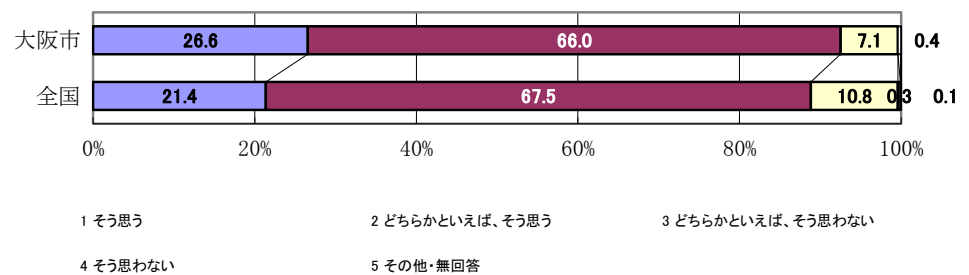
学校「どちらかといえば、行った」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

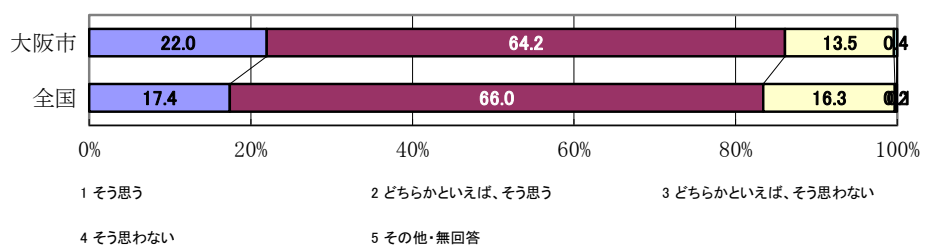
学校「そう思う」を選択



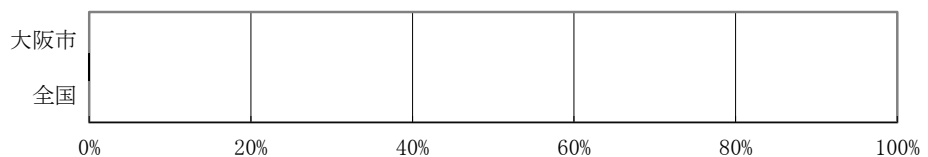
29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



学校「」を選択



学校「」を選択



